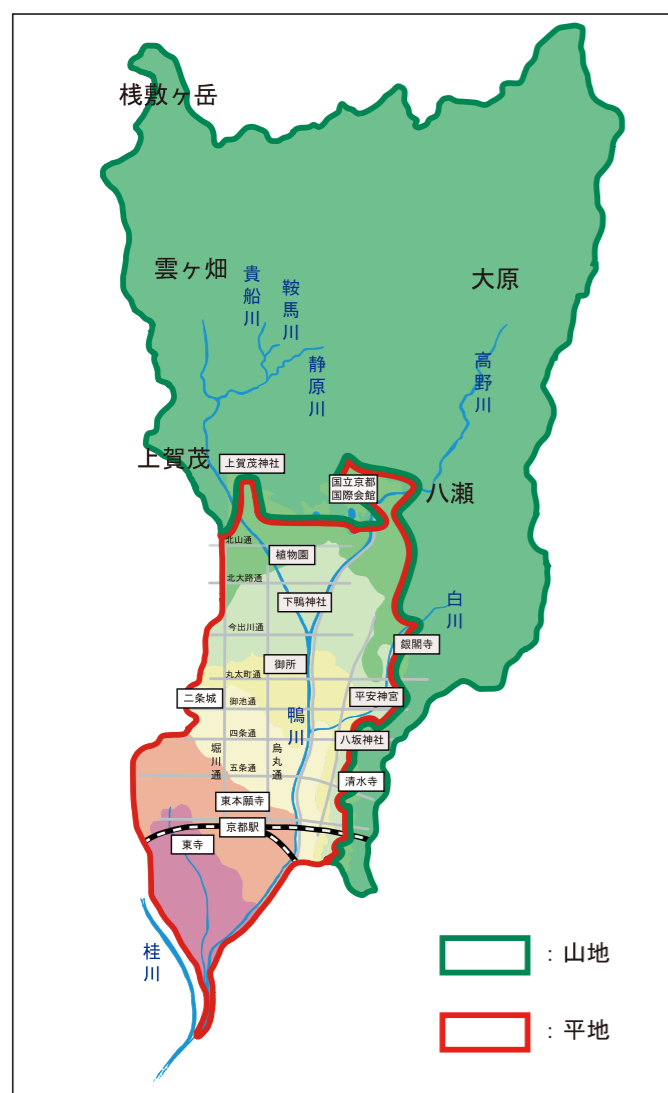


# 鴨川のようすをみてみよう

鴨川は、京都の北にある<sup>さじきがだけ</sup> 棧敷ヶ岳をみなもととし、<sup>しがいち</sup> 京都の市街地を北から南に向かって流れたのち、<sup>かつらがわ</sup> 桂川に注ぐ、<sup>りゅういき</sup> 流域<sup>※1</sup>面積約210km<sup>2</sup>、長さ約23kmの<sup>かせん</sup> 河川です。

上流では山地の谷あい流れ、平地に入ると<sup>まわ</sup> 周りの土地より低いところを流れ、そして、<sup>しちじょう</sup> 七条大橋から下流では<sup>きず</sup> 両岸に築かれた<sup>ていぼう</sup> 堤防の中を流れます。このように<sup>すがた</sup> 鴨川の姿は、上流、中流、下流で大きく変化していきます。



鴨川的位置

また、その流域の約70%を山地が占め、残りの約30%は、鴨川などの河川のはん濫によってつくられた<sup>せんじょうち</sup> 扇状地です。この扇状地に<sup>しがいち</sup> 京都の市街地が広がっています。



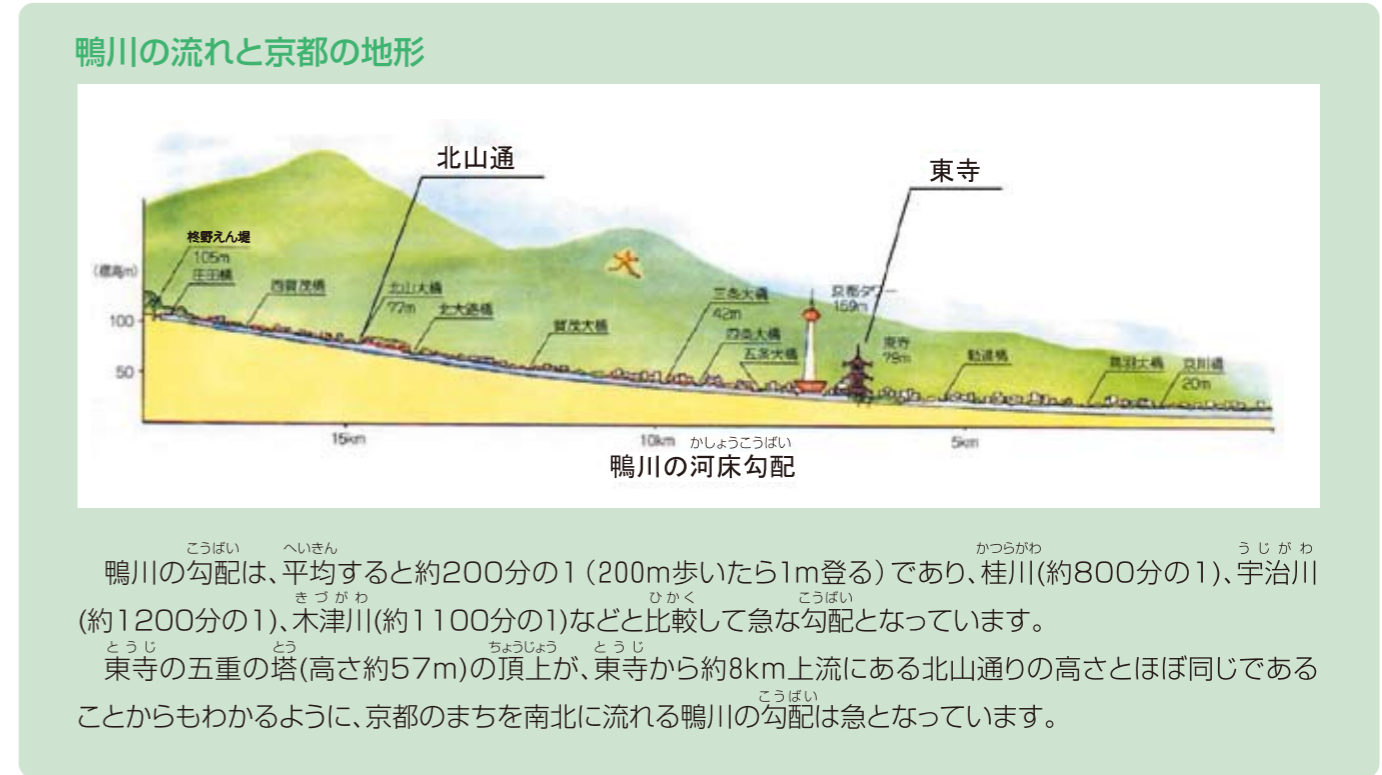
上流の様子(雲ヶ畑)



中流の様子(三条大橋付近)



下流の様子(大宮大橋付近)



鴨川の<sup>こうばい</sup> 勾配は、平均すると約200分の1 (200m歩いたら1m登る)であり、<sup>かつらがわ</sup> 桂川(約800分の1)、<sup>うじがわ</sup> 宇治川(約1200分の1)、<sup>きづがわ</sup> 木津川(約1100分の1)などと比較して急な勾配となっています。  
東寺の五重の塔(高さ約57m)の<sup>ちようじょう</sup> 頂上が、東寺から約8km上流にある北山通りの高さと同様であることからわかるように、京都のまちを南北に流れる鴨川の<sup>こうばい</sup> 勾配は急となっています。

※1 <sup>りゅういき</sup> 流域…川に流れ込む雨の<sup>ふくいき</sup> 降る区域のこと。  
たとえば、<sup>かみがも</sup> 上賀茂に降った雨は鴨川に流れ込みますから、<sup>りゅういき</sup> 上賀茂は鴨川の流域に含まれます。一方、<sup>やまなし</sup> 山科に降った雨は山科川を通して<sup>うじがわ</sup> 宇治川へ流れ込みますから、<sup>りゅういき</sup> 山科は宇治川の流域に含まれます。

**鴨川の名前の由来**  
鴨川の名前の由来にはいくつかの説がありますが、平安京造営の前から、そのほとりに住んでいた「賀茂氏」に由来しているという考え方が一般的です。賀茂氏の氏神をまつる上賀茂神社と出町付近の下鴨神社にちなんで高野川合流点より上流を「賀茂川」、下流を「鴨川」と書かれることが多いようです。